

おきさきさまは、いちどにいわれました。「ところが、それがちっとも、きみがわるくないのです。ひがしのほうのかべに、ならんでいるくもは、みんなこがねいろで、にしのほうのは、すっかりしろがねいろなのです。そのぴかぴかひかって、うつくしいこと。そうして、こがねいろのくものおしりからは、こがねいろのいとが、でているし、しろがねいろのくものおしりからは、しろがねいろのいとが、でているのを、ふたりのじょちゅうが、ひとりずつ、いと

ぐるまにかけて、ぶーんぶーんとよって、いとをつくっているのです。まぶしくて、きれいだったこと」「ふーむ。それはふしぎなことだな」「まだ、ふしぎなことがあるのです。そのいとをまきつけた、いとまきが、だんだんおおきくなってきますと、そのいとのはかりで、へやじゅうがまひるのように、あかるくなります。あたしは、あまりのふしぎさにびっくりして、おもわずそとから、そのいとをどうするのと、たずねました」「そうしたら、なんとへんじを

したの」と、おきさきさまが、  
おたずねになりました。「ところ  
ろが、へんじをしないのです」  
「どうして」「ふたりのじょち  
ゆうは、びっくりして、あたし  
のほうをみました。そ